



# むくどり通信

2022. November

# 11

No. 275

日本野鳥の会大阪支部

特集

夢洲の野鳥を守ろう



夢洲に飛来する  
鳥たちに  
未来を

# 夢洲の野鳥を守ろう

2025年大阪・関西万博の会場となる人工島「夢洲」、夢洲に残る湿地に生息するシギやチドリ類、ツクシガモなどのたくさんの水鳥たちとどのように共存できるのかが今、注目されています。

夢洲の野鳥を守るために、生息環境の保全や回復に向けて私たちは何ができるでしょうか。本特集を通じ、皆さんと考えたいと思います。



①



②



③

## CONTENTS

2022. 11 No.275

- 2 特集 夢洲の野鳥を守ろう
- 6 ‘水鳥の生息地の保全と回復’を大阪・関西万博のレガシーに
- 8 榎本佳樹生誕 150年記念事業について
- 9 幻の野鳥図鑑「原色野鳥ガイド」～甦る数十年前の鳥類図鑑画～
- 10 身近な鳥から鳥類学 第64回 近頃、海ガモ3種は減っている？
- 11 小山慎司の日本列島鳥見旅 第14回
- 12 鳥ガールのぐぜり 第23回
- 13 かもめコーヒー今日のお客さま 第5回
- 14 例会報告 / オンライン野鳥フォーラム報告
- 16 研究ダイアリー / 探鳥会のリスクマネジメント 第2回
- 17 そんぐぼすとクマタカノート①
- 18 鳥信 こんな鳥観たよ マガン、ソリハシセイタカシギ他
- 22 幹事会報告 / 天満繁昌亭出演他
- 23 次号予告 / 編集後記
- 24 イベント情報 / 大阪自然史フェスティバル / 新型コロナに対応

※今号は、探鳥会の案内は別刷りとなります



④

■表紙の鳥 ハマシギの群飛 此花区夢洲 2022. 3. 13

大阪湾奥部に位置する夢洲は、渡り鳥にとってかけがえのない場所です。この日のハマシギ804羽。ハマシギが群れ飛ぶ環境を未来に残すことはできるでしょうか。 文・写真 納家 仁



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩

2022年春 夢洲で見られたシギ・チドリ類

- P2 ①ハマシギの群れ 2022.5.22  
 ②キアシシギの群れ ソリハマシギが1羽混じる 2022.5.8  
 ③ウズラシギ夏羽 2022.5.1  
 ④メダイチドリ夏羽 2022.5.8  
 P3 ⑤チュウシャクシギとハマシギなどの群れ 2022.5.8  
 ⑥キョウジョシギ夏羽 2022.5.22  
 ⑦コアオアシシギ夏羽 2022.5.1  
 ⑧チュウシャクシギ 夕暮時に鳴きながら飛来 2022.5.22  
 ⑨コチドリ夏羽 2022.6.5  
 ⑩セイタカシギのつがい 2021年に続き営巣 2022.5.22

いずれも夢洲での鳥類生息調査時に撮影



大阪南港野鳥園とともに大阪府の生物多様性ホットスポット（Aランク）に指定されている夢洲。自然干潟がほぼ開発により失われてしまった大阪湾岸にあって、人工島「夢洲」のその造成途中でできた湿地は、府内最大のシギ・チドリなどの水鳥飛来地として機能してきた。2025年大阪・関西万博の開催地として急ピッチで埋め立てが進められる中、水鳥などたくさんの生きものが生息地を失うことに。

「SDGs達成への貢献」をうたう大阪・関西万博。SDGsへの真の貢献のためにも、失われた自然環境を復元し、鳥たちをはじめとする生きものの暮らしを守り、伝えていくことが求められる。

ハマシギ 2022.4

大阪湾岸で1000羽もの大きな群れが越冬できる場所は他にない

# 夢洲の野鳥を守ろう

## ■夢洲の湿地環境が失われる影響は

- ・世界的に減少が指摘されているシギ・チドリ類の多くは、長距離の渡りをします。渡りの中継地となる湿地の消失が減少の大きな要因となっています。大阪湾での飛来地消失は鳥たちにとっては大きな打撃です。
- ・本州最大級（2021年1月調査101羽）のツクシガモ（絶滅危惧Ⅱ類）の飛来地が失われます。
- ・ツクシガモやシギ・チドリ類など夢洲と南港野鳥園とを往来する水鳥が多くいることから、南港野鳥園への飛来数も激減すると考えられます。
- ・生物の多様性を守るために極めて重要な「生物多様性ホットスポット」という府民の貴重な財産が失われてしまいます。

## ■大阪湾岸全体での干潟や湿地環境の復元を

- ・瀬戸内海の東端に位置する大阪湾は、古くからシギやチドリなど渡りをする水鳥の中継地や越冬地となってきました。そのポテンシャルは、夢洲など湾岸部の埋立途上地の湿地に集まる水鳥が証明しています。
- ・失われた干潟や湿地を復元し、取り戻すことで、湾岸部の生物多様性の回復が図られ、水鳥たちが必ず戻ってきてくれます。水鳥の飛び交う命あふれる環境を、未来の子どもたちに伝えていくことが私たちの責務です。



写真 上：ツクシガモ（手前はハシビロガモ）2022.3.13  
本州最大の越冬地が消滅の危機にある

上：コクガン（絶滅危惧Ⅱ類）とオオバン 2021.12.19  
下：クロツラヘラサギ（絶滅危惧ⅠB類）2022.6.5  
世界に6千羽ほどしか生息しない貴重な水鳥

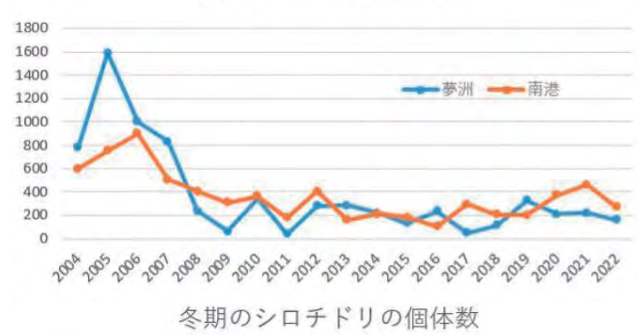
## ■夢洲の持つポテンシャル

夢洲が無くなっても、南港野鳥園に鳥がいくから大丈夫と思われる方がいるかも知れません。もちろん距離が近いことから鳥の行き来はあるのですが、夢洲は野鳥園の後背地としての役割もあり、夢洲が無くなることで、野鳥園へのシギ・チドリの飛来数も減少することが予想されます。夢洲と南港を比べてみると、夢洲での個体数が上回っていることがはっきり分かります（ただし春期のトウネンは大きな差はありません）。夢洲がシギ・チドリにとって重要な場所であることが分かります。

図1 南港と夢洲のシギ・チドリ個体数の比較（春・秋）



図2 南港と夢洲の春期トウネンと冬期シロチドリ個体数の比較



データ提供：NPO 法人南港ウェットランドグループ



トウネン夏羽 2022.5.8

シロチドリ夏羽 2022.6.5

## ■シロチドリを守ろう

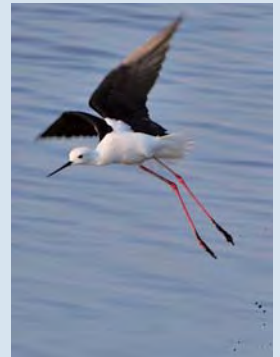
モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ調査結果から全国でシロチドリの数が顕著に減少していることが報じられました（モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査ニュースレター Aug. 2022）。南港と夢洲の冬期の調査結果（図 2）を見てもそれは明らかです。シロチドリは、大阪湾岸部でもかつては一年を通じ、海辺で比較的普通に見られるチドリでしたが、今はまれにしか姿を見ることができなくなるほど個体数が減っています。

海岸近くの砂浜で繁殖する鳥ですが、適地のない大阪では夢洲などの埋立地の裸地で少数が繁殖しています。営巣環境の保全・創出が大きな課題です。

## ■セイタカシギを守ろう

夢洲で、2021年に複数つがい繁殖に成功、2022年も営巣が確認できました。夢洲の塩性湿地が府内で唯一の貴重な営巣地となっていますが、埋め立てにより失われることに。

かつて繁殖記録のある堺第 7-3 区などに夢洲の代替となる環境を創出することが急がれます。



大阪支部では多くの方に湾岸部の水鳥と環境保全に関心を持っていただけるよう、シンボルとなるシロチドリとセイタカシギのイラストを作成しました。今後、イベントや広報資料など様々な場面で活用していきます。

11月20日の大阪自然史フェスティバルの講演会参加者にシール（シロチドリまたはセイタカシギのいずれか1枚）をプレゼントします。

※講演会の詳細は、本誌 24 頁、又は同封の大阪自然史フェスティバル 2022 のチラシをご覧ください。

## ◆会員からの声

むくどり通信を読み、夢洲にこれだけ多くの野鳥がいることに驚きました。人工島によるなにわの風景復活は世界の湾岸が失われ野鳥の行き場がなくなっている今だからこそ未来に不可欠なことだと思います。大阪湾、河川、都市公園、山林への渡りの休憩、先端地域の重要なエリアで野鳥環境の大切さと美しさを実感でき、環境と福祉文化をつなぐ包括的な共生未来を描くシンボルになると思います。ニューヨークセントラルパーク効果のように夢洲、大阪城、森林をバードベルトとして環境意識の向上や植物の希少種など生物が元に戻ることは、開発よりはるかに質の高いことで、素晴らしい鳥たちが未来の都市と自然の在りかたを描いてくれると思います。

永田佳子 2022.10.7

# ‘水鳥の生息地の保全と回復’を大阪・関西万博のレガシーに 荒木 涼子

## ■夢洲での鳥との出会い

2022年5月、広い埋立地の一角に私は立っている。端から埋め立てが迫り来るが、未だ残されたヨシ原がさわさわと揺らぎ、数羽のツバメが飛び交う。大阪湾奥部の「夢洲」。

ピューイ、風に乗って、鳥の音が響く。夕陽に染まる水面に、アオアシシギ、トウネン、オバシギたちの姿が映る。コチドリが飛びながらピョピョと鳴く。チュウシャクシギが、ホピョピョピョピョピョ、ホホと鳴き、アオサギやダイサギと共に土手に立つ私の目の前に飛んで来て、旋回する。もうすぐこの水辺が無くなるのか…シギの声はなんと悲しいのだろう。

私がシギ・チドリを初めて観察したのは南港野鳥園で、その次が夢洲でした。初めて夢洲に入ったのは2020年6月、松岡さん（前支部長）と橋本さん（元支部長）と一緒に、コアジサシの営巣確認に行きました。北側の3区には雨水の溜まった大きな池があり、池を埋めるための土砂が投入される最中で、小魚が最後の息をするように逃げ回り、それをめがけてコアジサシがダイブしていました。この池は、中央が窪んで深いところにカモが集まり、周囲の浅瀬にシギ・チドリ類やサギなども集まっていた。以前の様子を知る人によると、鳥たちが貝やカニ、ウナギを食べるところが観察され、「ラムサール条約登録湿地」の条件を満たす数のホシハジロ（約5000羽）やコアジサシ（2万羽）が記録されていました。2区の湿地では、春秋に多くのシギやチドリが飛来し、冬から春には千羽ものハマシギが右へ左へ群舞し、200羽ものツクシガモが休み、無数のカモ類が水面を埋め尽くしていました。3区の池は埋められてもうありませんが、2区の湿地は何としても残したいと思いました。

## ■大阪湾と夢洲

大阪湾の空中写真を見ると、浜辺はなく、埋め立てによる人工護岸は直線でカクカクとしています。かつての大阪湾は、河口には砂洲や干潟、ヨシ原が広がり、塩干狩りで賑わった住吉浦などが多くの渡り鳥の休息地でした。

古い地図を見てもわかる様に、元々、遠浅で茅渚の海と呼ばれた豊かな漁場で水鳥の住処だった場所を干拓し、埋立てが進められました。

大阪湾岸は特に戦前からの港湾開発、戦後の臨海工業地帯造成のための埋め立てなどで大きく改変され、その後も臨海部の埋め立ては休むことなく続き、今や自然の浅海沿岸域はほぼ皆無となっています。自然の行き



図1 大阪町中並村々絵図17世紀と現代の写真

場を失った水鳥たちは、南港野鳥園の他、埋立地にできた湿地を見つけては転々としながら命を繋いでいるのが現状です。

ゴミの最終処分地である夢洲では、湿地やアシ原等エコトーンが自然創生され、様々な生き物が生息するようになりました。特にシギやチドリ類、カモ類は大阪湾で最大の飛来地となっていました。南半球と北半球という長距離の渡りをする鳥にとって、夢洲は渡りに欠かせない休息と栄養補給の「中継基地」です。しかし、大阪・関西万博2025の開催が決まり、ここに鳥の暮らせる場所は無くなる事になりました。



図2. 重要な鳥類の生息場所 / 地理院地図に追記

夢洲は、環境事業として建設ゴミや浚渫土砂・焼却灰などを入れており、上部に建物を建てるようにできていません。ゴミの処分場として活用されて来た土地が、万博招致の頃からメディアで負の遺産と呼ばれるようになりました。どこの自治体もゴミ処分場の確保に苦勞する一方で、夢洲は未だゴミの受け入れ余力が残っていたところに、万博会場という計画に間に合わせるために急いで購入してきた土砂で埋め立てを進めました。

## ■生物多様性ホットスポットを守るのは誰

大阪府では、夢洲をその動植物の多様性から、南港野鳥園とセットで生物多様性ホットスポットAランクに選定しています。

夢洲は南港野鳥園のすぐ北西側にあり、両者を行き来する鳥も多くいます。シギ・チドリ類は干潮で干潟が現れると野鳥園に飛来し、満潮になると夢洲に帰るなど夢洲は南港の後背地としてシギやチドリの休息の場として機能してきました。又、ツクシガモは、昼に安全で広い夢洲で休み、猛禽類のいない夜間に野鳥園に飛来することがよく知られています。

夢洲と南港は環境省のモニタリングサイト1000シギ・チドリ調査地となっており、過去のデータを比較すると、夢洲でのシギ・チドリの個体数は、南港を大きく上回っています（P5参照）。世界全体で減少の著しいシギ・チドリ類にとって、大阪湾最大の飛来地が無くなることは大きな打撃です。

夢洲は、一時期大阪湾最大のコアジサシの繁殖コロニーができて南への渡去前には2万羽を超える数が集結することもありました。又、ベニアジサシの繁殖例がある他、減少の著しいシロチドリ、コチドリ、セイトカシギの繁殖も確認されています。冬期は、ツクシガモなど希少種を含む多数のカモ類、チュウビやハイ

イロチュウビ、コミミズクなどの猛禽類の越冬地にもなっています。

ホットスポットAランクの夢洲での生物多様性の喪失は、我々府民にとっても大きな損失となります。

「大阪府生物多様性戦略」（2022年3月策定）では、2030年までにレッドリストにある動物の個体数を増やすとあります。大阪府や市は、夢洲に50種もの絶滅危惧種があることを把握しているのです。ではどのような方法で増やすつもりでしょうか、夢洲に今飛来している種を保全せずに他にどのような方法があるのでしょうか。府や市には、夢洲において将来に向けて生物多様性を回復させる手立てを講じることが求められます。

## ■2区湿地の保全を要望…

2022年3月、(公社)大阪自然環境保全協会、(公財)日本自然保護協会、(公財)世界自然保護基金WWFジャパン、(公財)日本野鳥の会、同大阪支部は、水上ショー会場であるウォーターワールド（現名称はウォータープラザ）となる2区湿地の保全の要望書を大阪市などに提出し、記者発表をしました。

万博協会が実施した環境アセスメントの内容は、湿地で採餌するシギ・チドリ類、ツクシガモについて「会場内の森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用するため影響は無い」「南港野鳥園へ移動するから影響はない」「万博は春夏の開催なので旅鳥のシギ・チドリやカモ類に影響はない」という杜撰なものでした。シギ・チドリは森で採餌はせず、飛来は春と秋の各々2か月間とすると時期は重なり、また越冬する種もあります。時期が問題ではなく、その湿地環境がなくなることで飛来が不可能となります。

2021年10月、2区の地盤改良工事による葦原と湿地の埋め立てが始まりました。松井市長から環境アセス準備書に対する意見として、「専門家等の意見を聴取しながら、工事着手までにこれら鳥類の生息・生育環境に配慮した整備内容やスケジュール等のロードマップを作成し、湿地や草地、砂れき地等の多様な環境を保全・創出する」との意向が示されていましたが、“アセス対象は万博会場に対してであり、それに先行する大阪港湾局による地盤改良工事は対象外”という大阪市環境局の対応です。一連の環境変化がアセスの対象外ということには大きな矛盾を感じます。

## ■メディアによる報道

2022年5月10日、朝日放送テレビ『news おかえり』で、夢洲の野鳥の現状が紹介されました。

松井市長の「野鳥のために埋め立て地を作ったわけではない。(略)野鳥の皆さんの理解をいただきたい」に対し、スタジオのコメンテーターの意見です。「市長の中の未来は電気でガチャガチャした未来なのかも知れないが、僕らが望むべき未来は自然豊かな方にシフトチェンジしてるのでは」「わかりやすい未来は、空飛ぶクルマとかだけど、自然とどう共存するかもね。」「行政が生物ホットスポットに指定しているのに、行政が埋めてしまったら、今後他でもこういうことが起きてしまう。大阪・関西万博のテーマは『いのち輝く未来社会のデザイン』。命の大切さやSDGsを大阪府市は打ち出している。動物の命も入れていただいてそ

んな万博にして頂ければ嬉しい。」ABCニュース万博予定地の開発で生命の危機「夢洲」は水鳥の“楽園”松井市長「野鳥の皆さん理解を」

[https://www.asahi.co.jp/webnews/pages/abc\\_14952.html](https://www.asahi.co.jp/webnews/pages/abc_14952.html)

2022年7月28日、読売新聞に記事が出ました。【松井一郎市長は「自然保護は非常に重要。野鳥がすみ、育つ場所を夢洲内でしっかりと作りたい」との考えを示しており、万博終了後、夢洲西側に野鳥が生息できるエリアを設ける方針だ。】と。私たちは驚き、大阪港湾局に確認しましたが、「その予定はない」という回答でした。大阪港湾局は本年10月より、現地での万博協会による工事が本格的に開始となることから保護団体による夢洲での鳥類モニタリングを禁止しました。大阪・関西万博のために今いる夢洲のいのちが途絶えても、南港野鳥園と共に大阪湾のどこかで野鳥のいのちが繋げられるように活動を続ける必要があります。

## ■夢洲と大阪湾岸の水鳥飛来環境の復元に向けて

私たち保護団体は、野鳥の居場所を残す事で、今夢洲に来ている50種以上の絶滅危惧種の命を未来に繋げられる事、G7サミットで日本が約束した、生物多様性の損失を食い止め、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標30by30(サーティバイサーティ)に沿っている、それが万博のレガシーになることを訴えています。生態系の保存は、海や浜の生き物と鳥を守ることでなく、私たちが美味しい海産物が食べられる事に繋がります。浅海沿岸域のCO2吸収率は、森林を上回るという「ブルーカーボン」の考え方も知られるようになって来ました。

2018年、葛西海浜公園とその沖合の東京に最後に残された干潟(葛西沖三枚洲)が、東京オリンピックのレガシーとして「ラムサール条約湿地」に登録されました。市民による運動と首長への訴えがそれを実現させました。

大阪・関西万博のレガシーとして、SDGsへの真の貢献のためにも、水鳥の飛来環境を復元し、後世に伝えることができれば素晴らしいことだと思います。湿地やヨシ原の復元、過去に凍結された、西側護岸に人工干潟を作るエコポート計画を復活させる事も案の一つです。南港野鳥園の拡張も有効な選択肢です。

## ■みんなの声を届けよう！

夢洲や大阪湾岸での水鳥の飛来環境を守り、復元するために、博覧会協会や大阪府・市、大阪港湾局、環境局、環境省、内閣府、協賛企業、参加国などに皆さんの意見を送りましょう。学校や職場、SNSでも声の拡散をお願いします。大阪支部twitter鳥ガールもフォローしてください。

私たちは夢洲でたくさんの鳥と出会いましたが、これを過去のものとするのではなく、大阪湾に、鳥たちの群れる干潟や湿地の風景を繋いでいきたいと思えます。浜辺の鳥が未来の大阪にも飛び、空にはずっとその声が響いていけるように。

(あらき りょうこ 日本野鳥の会大阪支部幹事  
大阪支部「夢洲プロジェクトチーム」メンバー)